

平成30年度 第4回人権教育学級

日時：9月13日（木） 9：50～11：50

場所：別府市役所 5F大会議室

演題：女性と人権

～小さな命を守るために～

講師：円ブリオ大分

代表 熊谷 孝子 さん



<講師の熊谷孝子さん>

●講演概要

1 はじめに

○自己紹介

○4人の子育てを通して感じたことや円ブリオ基金の活動のことを中心に話したい。

エンブリオとは、8週目の一円玉大の胎児のことであり、エンに円を当てた名称で1円募金をする活動をいう。

2 4年前、放映されたニュース「OBSイブニングニュース」

< 内容 >

・大分市内の病院に {妊娠SOSホットライン} が開設された。やむをえず、シングルマザーの道を選ぶ女性、思いがけない妊娠で困っている女性等の相談にのっている。円ブリオ大分が相談窓口として開設したものである。5人が円ブリオの支援を受けて出産した。電話相談で救われた女性の一人の事例を交えながら、「一人で抱え込むのではなく、こういう支援があることを知ってほしい。」と伝えている。



3 DVD視聴「生まれてきてくれてありがとう」



<BGMといっしょに、母親からわが子への感謝のメッセージが流れる>

4 機関紙「生命尊重ニュース」から

○発刊から30年

○きっかけは、日本に来日したマザー・テレサが日本の中絶の多さに驚いたという講演で、この講演を聞いた数人の女性（その一人が大分にいる）が、お腹の中の赤ちゃんたちの人権や生きる権利をそんなに奪っていいものかと社会に問いたいということから、発刊に至った。

○一年間に葬られる命は16万8千。そのうち10代の中絶が1万5千。戦後70年で7600万にのぼる。

5 出産にまつわる状況の変化と対応

- ・時代の変化と共に孤立する女性が多くなっていることに気づく。もしかすると、一人で頑張ってお母さん役もお父さん役もされている人がいるかも知れない。
- ・以前は、普通に結婚して子どもが生まれる、といった時代だった。また、産婦人科を開院して分かることは、現代は、出産をめぐる背景が様々に変わってきているということである。
- ・一人で産むと決断した人をだれかが救っていかないと、また、支えていかないと前に進まないという状況がある。
- ・赤ちゃんが捨てられる事件が後を絶たないが、あまりにも多くなってきたため、誰も驚かなくなった。



<講演を聴く学級生>

6 円ブリオの支援を受けて出産をした事例

○事例1・・たくさんの葛藤・悩み・苦しみを抱えながら、本人の「どんなに大変でも産んであげたい。」という思いを支え、支援して無事出産することができた。出産できたことで、自信を取り戻し、今は、わが子を育てている。

○事例2・・いろいろな事情を抱えていて、難しい面もあったが、本人の「どうしても産みたい」という思いは変わらなかったため、支援を続け、無事、出産に至った。産むための環境が整うと、赤ちゃんは生まれてくる。不思議。

7 出産に対する思い・願い

○産みたくない人を無理に産ませようというわけではない。ただ、子どもの命は誰のものか考えてほしい。「産む・産まないは、女性の権利であり、親が

決定していい。」と考えているかも知れないが、もう一度考えてほしい。

- 生命が誕生して38億年。10ヶ月の間に命の歴史を全部たどって子どもは生まれてくる。妊娠初期、劇的に変わって行く時に、いろいろな害や悪影響をくぐりぬけて生まれた、手元にいる皆さんのお子さんはそれだけで優秀で、それだけですごい。その奇跡的な出来事をだれも支援してくれる人がいないからといって産まないという選択をしてほしくない。
- 円ブリオで支援する人たちの背景を考えた時に、「こんなに大変だったのに、よく育って生まれてきたね。」と、それだけで胸がいっぱいになる。

8 円ブリオの支援で伝えたいこと

- 大分でも円ブリオの支援を受けて10人以上が生まれている。
- 長崎県大村市でも100人規模の赤ちゃんの命を救っている。
- 「女性と人権」というけれど、女性っていうのは世の中では非常に弱者。働きながら子どもを育てたいと思ってもなかなか難しい。お腹が大きくなると辞めさせられる、雇ってくれないというのが現状。
- 募金箱の中に一円玉をいっぱい入れると800円~900円くらいになる。真剣に集めないとまとまったお金にはならない。
- 8週までの赤ちゃんは、一円玉くらいの大きさや重さであり、吹けばふっと飛ぶようなそういう存在からお腹の中で一生懸命大きくなって命になっていく。一円玉募金ではなく、100万寄付してくれる人が1人いたら楽なような気がするが、実は、そうではない。一円玉を集めることで、人の命が救えるということ子どもに話してほしい。相手が小さければ小さいほどピュアな気持ちの中に命がずっと入っていく。手間はものすごくかかるけれど、命を守ろうという気持ちが育ってほしいからこそ、この手間のかかる一円玉募金をしている。決して、お金を集める、寄付を募るということではない。

9 円ブリオの支援の広がり

- 老人会 ・津久見市の例
- 毎回毎回ビニル袋に一円玉を入れて持ってきてくれていた方が亡くなった後、家族の方が遺品整理をしていて見つけた一円玉を持ってきてくれた。命というものをみんなで守っていこう、一人でも多くの赤ちゃんが生まれて元気に育ってほしいと願っていることの表れだと思う。大分でも円ブリオの支援を受けて10人以上が生まれている。

10 どこからが命？ どこからが人間？ そして、完母とは

○どこからが命で、どこからが人間かということを考えたことがありますか？

私たちは着床した瞬間から命であると思っているが、国によって線引きがある。例えば、イギリスは、妊娠して15日以上経てば、「人」とであると定められている。日本は体の中から赤ちゃんの体の一部が外に出てから出ないと赤ちゃんは人として扱われない。

○「着床した時からお母さんになる。」というスイッチが入ると言われている。スイッチが入るといことは、おっぱいの準備をするという合図。

○完全母乳・・・私が考える完母とは、体から出るおっぱいを一滴残らずが子の口の中に注いであげて、母といっしょに一心同体の親子関係をつくっていこうという考え方。

11 終わりに

○お子さんと出会えて日の浅い方、すでにお子さんが大きくなっている方、いろいろだと思うが、何かあった時は、お子さんと出会った時の原点にもどって「本当に生まれてくれてそれだけでよかった。」という思いを思い出してほしい。

○いつか子どもは、親元を離れていく。子育ては、大変かも知れないが、親元を出て行く年齢から引き算するとよい。毎日いっしょにいるのはわずか。子育ては、とてつもなく大切な時間ととらえてほしい。親子の縁の強さを感じてほしい。

12 絵本「わたしがあなたをえらびました」の朗読

○生まれてきた赤ちゃんの気持ちを赤ちゃんが語っているような語り口と内容で、感動的なひと時でした。



<絵本を朗読する講師の熊谷さん>

●班の話し合い

○命の大切さを考えさせられました。円ブリオの活動もはじめて知りました。1円を集めて支援につながるなら支援していきたいと思います。また、子どもたちという時間を引き算で「考える」ことに気づかされました。上の子どもの時はできなかったが、下の子どもとの子育ての時間に生かしていきたいと思います。今日は、すごく感動しました。



<班での話し合い>

○子育ては、毎日、手がかかるけれど、子どもが生まれた時のことを思い出して初心に戻ることができました。

○円ブリオの基金で生まれた子どもも幸せになってほしいです。

○今日の話は感動しました。円ブリオのことは聞いたことがあります。子育てについて、今は、特に悩みはありませんが、悩みがあっても先生のように対応していきたいと思います。今日は来てよかったです。

○今日話を聞いて、子どもが生まれた時のことを思い出しました。子育てでは不満がたまりがちでしたが、子どもの良いところを思い出させてくれて感動しました。来てよかったです。

○父親の参加人数が少ないですが、このような話を父親にも聞いてほしいと思いました。

○わが子が生まれた時の気持ちを日々の生活で忘れがちになりますが、今日は、また、思い出すことができてよかったです。

○円ブリオの支援で出産した母親へのインタビューで、「今は、本当に幸せです。」という言葉が印象に残りました。円ブリオのおかげだなと感じました。

○日本で中絶の多いことに驚き、変わらないといけないと感じました。子育てしやすい社会になってほしいと願っています。

○胎児の人権やかぞえ年の概念を考えるきっかけとなりました。子どもが生まれて来てくれたことにしっかり感謝したいです。

○今日の講演で中絶しなければいけない人の思いを考えるようになりました。これから自分がどういうふうにしていくかを考えていきたいと思います。

○円ブリオのことを初めて知った人が多く、インターネット等でもっと広まればいいなと思いました。

○先生の「子どもの命は誰のものか」という言葉に考えさせられました。お腹の中に宿った時から赤ちゃんにも人権があり、「産まない」と考えている妊婦さんにはこの円ブリオに相談してよく考えてほしいと思いました。

○円ブリオの活動を知らない人が多いので、学校等で講演会を開いたり、コンビニ等の身近な場所に募金箱を設置したりして呼びかけるといいのではないかと思います。

○改めて原点に戻り、自分の家庭だけでなく周りのことも考えていけたらと思いました。

○子どもを産んだら何があってもなんとかなります。子どもの成長をずっと見守っていきたいです。

○命の授業を小学校で行うとよいと思います。子どもの頃から命の大切さを学ぶことが必要です。



<班からの発表・全体交流>

○国によって「人」の認識が違うのに驚きました。
子どもに親にさせてくれてありがとうと伝えたいです。